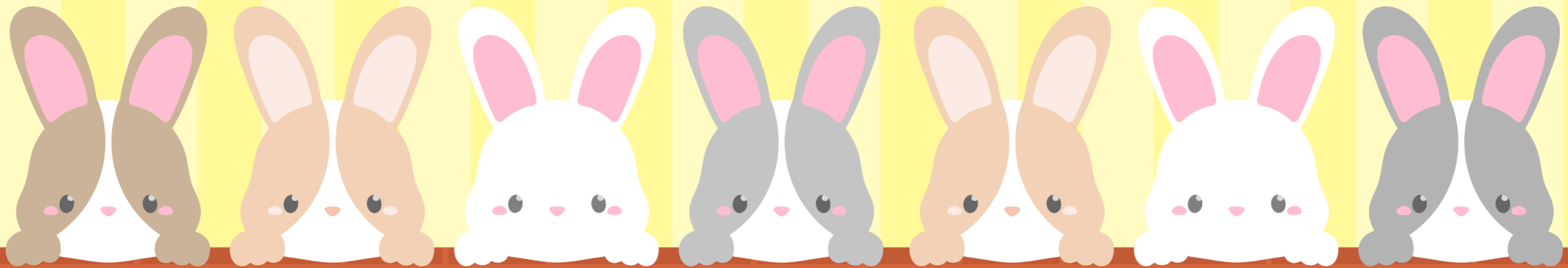




若くは大人の贈り物





2023年  
新潮社 新潮文庫 nex

## 世界でいちばん 透きとおった物語

著 / 杉井 光



大御所ミステリ作家の宮内彰吾が、癌の闘病を経て61歳で死去した。女癖が悪かった宮内は、妻帯者でありながら多くの女性と交際しており、そのうちの一人とは子供までつくっていた。それが僕だ。

宮内の死後、彼の長男から僕に連絡が入る。

「親父は『世界でいちばん透きとおった物語』というタイトルの小説を死ぬ間際に書いていたらしい。遺作として出版したいが、原稿が見つからない。なにか知らないか」

奇妙な成り行きから僕は、一度も会ったことがない父の遺稿を探すことになる。知り合いの文芸編集者・霧子さんの力も借りて、業界関係者や父の愛人たちに調べを入れていくうちに、僕は父の複雑な人物像を知っていく。



2023年  
祥伝社 祥伝社新書

## その気持ち、なんて言う？ プロに学ぶ感情の伝え方

著 / NHK「言葉にできない、  
そんな夜。」制作班



インターネットのさまざまな情報にさらされ、メール、SNS、メッセージアプリでコミュニケーションをはかる私たちは、史上類を見ない言葉の洪水の中にいます。

本書は、Eテレで放送された教養バラエティ番組「言葉にできない、そんな夜。」を書籍化したものです。

「恋が芽生えた瞬間の気持ち」「懐かしい音楽を聞いた時の気持ち」「同窓会に向かう時の気持ち」など、日常の言葉にできない瞬間を切り取って、小説家、ミュージシャン、俳優、お笑い芸人などの超豪華クリエイターが生み出した絶妙な表現をおさめました。

表現集として楽しめるほか、言葉のプロの発想法、着眼点を参考に、自分ならどう表現するかを考えながら読むのもおすすめです。



2023年  
河出書房新社

## くもをさがす

著/西 加奈子



カナダでがんになった。  
あなたに、これを読んでほしいと思った。

『くもをさがす』は、2021年コロナ禍の最中、滞在先のカナダで浸潤性乳管がんを宣告された著者が、乳がん発覚から治療を終えるまでの約8ヶ月間を克明に描いたノンフィクション作品。

カナダでの闘病中に抱いた病、治療への恐怖と絶望、家族や友人たちへの溢れる思いと、時折訪れる幸福と歓喜の瞬間――。

切なく、時に可笑しい、「あなた」に向けて綴られた、誰もが心を揺さぶられる傑作です。



2023年  
KADOKAWA

## この夏の星を見る

著/辻村 深月



亜紗は茨城県立砂浦第三高校の二年生。顧問の綿引先生のもと、天文部で活動している。コロナ禍で部活動が次々と制限され、楽しみにしていた合宿も中止になる中、望遠鏡で星を捉えるスピードを競う「スターキャッチコンテスト」も今年は開催できないだろうと悩んでいた。

真宙（まひろ）は渋谷区立ひばり森中学の一年生。27人しかいない新入生のうち、唯一の男子であることにショックを受け、「長引け、コロナ」と日々念じている。

円華（まどか）は長崎県五島列島の旅館の娘。高校三年生で、吹奏楽部。旅館に他県からのお客が泊っていることで親友から距離を置かれ、やりきれない思いを抱えている時に、クラスメイトに天文台に誘われる――。



2023年  
ポプラ社

## さみしい夜には ペンを持って

著/古賀 史健 絵/ならの



『嫌われる勇気』古賀史健が、  
はじめて13歳に向けて書き下ろした  
「自分を好きになる」書き方の寓話

うみのなか中学校に通うタコジローは、学校にも  
居場所がなく、自分のことが大嫌い。

ある日、不思議なヤドカリおじさんと出会ったタコ  
ジローはその日から、どんどん変わっていく…

### こんな方におすすめ

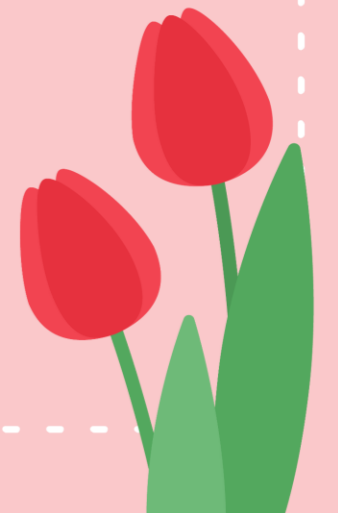
- 与えられた正解に違和感がある
- 自分の考えをうまく言葉にできない
- SNSに疲れてきた



2023年  
文藝春秋

## 私たちの世代は

著/瀬尾 まいこ



「明日が怖いものではなく  
楽しみになったのは、あの日からだよ」

今でもふと思う。あの数年はなんだったのだろうか。  
不自由で息苦しかった毎日。家で過ごすことが  
最善だとされていたあの期間。多くの人から当たり前  
にあるはずのものを奪っていったであろう時代。

それでも、あの日々が連れてきてくれたもの、与え  
てくれたものが確かにあったー。

『そして、バトンは渡された』

『夜明けのすべて』の著者の書下ろし長編  
いまを生きる私たちの道標となる物語の誕生！



2022年  
KADOKAWA

## ウクライナにいたら 戦争が始まった

著/松岡 圭祐



単身赴任中の父と3か月を過ごすため、高校生の瀬里琉唯(るい)は母・妹とともにウクライナに来た。初日の夜から両親は口論を始め、琉唯は見知らぬ国で不安を抱えていた。

キエフ郊外の町にある外国人学校にも慣れてきたころロシアによる侵攻が近いとのニュースが流れ、一家は慌ただしく帰国の準備を始める。しかし新型コロナウイルスの影響で一家は自宅から出ることができない。

帰国の方法を探るものの情報が足りず、遠くから響く爆撃の音に不安と緊張が高まる。一瞬にして戦場と化したブチャの町で、琉唯は戦争の実態を目の当たりにする。

NO  
IMAGE



2023年  
暮しの手帖社

## あなたの日本語だいじょうぶ？ SNS時代の言葉力

著/金田一 秀穂



巷の日本語は不思議でいっぱい！  
常に新しい言葉を「採集」し、検証しながら使っていく価値があります。

当たり前のように使ってみれば、そこに人間が持っている「気配」が生じる。

Zoom、LINE、メール、Twitter…。ネット社会の言葉の伝え方。

あなたの気持ちはしっかり届いていますか？



2022年  
平凡社

## 防災アプリ特務機関NERV 最強の災害情報インフラをつくれた ホワイトハッカーの10年

著/川口 穰



2022年  
河出書房新社

## オタクを武器に 生きていく

著/吉田 尚記



### 「謎の災害速報アカウント」――。

かつてそう呼ばれたツイッターアカウント「特務機関NERV（ネルフ）」は、今や社会インフラになった。ツイッターフォロワー数140万人、スマホアプリダウンロード数206万。地震情報や気象警報のツイートはNHKニュース速報よりも速い。

「特務機関NERV」とはもともと、アニメ『新世紀エヴァンゲリオン』に登場する国連直属の非公開組織の名だ。作中では、敵「使徒」のせん滅を主要任務とする超法規的組織として描かれる。

アカウントの始まりは2010年。その「エヴァ」ファンの大学生が「遊び」で始めたアカウントだった。だが、2011年の東日本大震災がNERVアカウントを大きく変える。

好きを活かして活躍できる人・できない人って具体的に何が違うの？ 日本一のオタクアナウンサーである著者が、アニメ業界・動画配信等で活躍する方々と徹底討論し、その要件をまとめました。

### 〈相談相手〉

- 夢を叶えたオタク・竹達彩奈さん（声優／『けいおん！』『五等分の花嫁』他）
- 会社員でオタク・高橋祐馬さん（アニプレックスプロデューサー／『鬼滅の刃』他）
- 意外性のありすぎるオタク・けいたんさん（ダンサー・配信者・経営者／REAL AKIBA BOYS）
- 次世代オタク・尾原和啓さん（IT批評家／『プロセスエコノミー』『アフターデジタル』他）



2021年  
KADOKAWA 角川文庫

## 君たちは今が世界

著/朝比奈 あすか



教室で渦巻く、悪意と希望の物語。

「文ちゃん、やれるよな？」

人気者をつるむようになってから、文也は自分がクラスの中心にいるような気がする。担任の幾田先生は地味で怖くないし、友達と認定してくれるみんなと一緒にいるのが一番大切だ。ある日、クラスを崩壊させる大事件に関わってしまうまでは――。

(「みんなといたいみんな」)

学校も家庭も、子どもは生きる世界を選べない。胸が苦しくなるような葛藤と、その先にある光とは。

2020年、難関中学校の入試問題に数多く取り上げられた話題作に、文庫でしか読めない特別篇「仄かな一歩」を加えた決定版！



2023年  
新星出版社

## どんなに苦手でも うまくい電話応対

監修/北條 久美子



電話が苦手なのはあなただけじゃない！

その場であせって言い回しを考えるのではなく、本書で紹介する「定型フレーズ」に慣れてしまえば失敗はありません。コツさえわかれば、どんなシチュエーションでも乗り切れます。

相手が不在だったら？ 遅刻しそうなときは？  
クレームを言われたら？

さまざまなシーンで使える、電話に適した言葉を紹介。

突然の電話にあたふたしてしまう…そんな人のミカタになる1冊！ 電話のストレスがなくなる、便利なフレーズ集です。



2023年  
朝日新聞出版 朝日新書

# ポテトチップスと日本人

## 人生に寄り添う国民食の誕生

著/稲田 豊史



2023年  
講談社

# どうしようもなく辛かったよ

著/朝霧 咲



## 我々は、なぜかくも ポテトチップスが好きなのか？

〈アメリカ〉の影、〈経済大国〉の夢、〈格差社会〉の波……。ポテトチップスを透かせば時代が見える。

和洋折衷の完成形「のり塩」、洋食への憧れが育てた「コンソメパンチ」、団塊ジュニアを魅了した「ピザポテト」、ポテトチップスを軸に語る戦後食文化史×日本人論。

「新書大賞2023」第2位の『映画を早送りで見ると、ファスト映画・ネタバレーコンテンツ消費の現在形』で注目の著者、待望の新刊！

「特別になりたい」と願う中学生の若菜は、日々、バレー部での練習に明け暮れていた。しかし三年生になると、顧問の異動によってチームは大きく動揺してしまう。若菜の「ある提案」によって落ち着きを取り戻したチームは、最後の大会へ向かうのだが――。

夏から、少女たちは「それぞれの最終学年」に直面することになった。学業優秀な真希、学校を休み続ける愛美、裏と表をうまく使い分ける桜、ルールから逸脱することができないくるみ。

部活というつながりを失った少女たちが隠してきた本心、我慢してきた関係性。少女たちの卒業までの日々が、始まった。





2023年  
河出書房新社

いつか君に出会ってほしい本  
何度でも読み返したい158冊

著/田村 文



共同通信社の記者による連載「本の世界へようこそ」を書籍化。「面白い本を読みたいけど何を読めば良いかわからない」「読書って退屈そう」そう思っているあなたに出会ってほしい158冊！

### 目次

- 第1章 この世界を生きのびろ
- 第2章 私らしい「性」と「生」
- 第3章 今があり明日がある
- 第4章 孤独な魂を抱いて歩く
- 第5章 生と死と愛、感動の物語
- 第6章 戦争という名の暴力
- 第7章 災厄の中で

「本を読むことの面白さを知ったなら、  
あなたの人生、しめたものだ」



2023年  
東洋経済新報社

きみのお金は誰のため  
ボスが教えてくれた  
「お金の謎」と「社会のしくみ」

著/田内 学



今さら聞けない現代の「お金の不安や疑問」を  
物語で楽しく解説！  
大人も子どもも知っておきたい、経済教養小説！

ある大雨の日、中学2年生の優斗は、ひよんな  
ことで知り合った投資銀行勤務の七海とともに、  
謎めいた屋敷へと入っていく。

そこにはボスと呼ばれる大富豪が住んでおり、  
「この建物の本当の価値がわかる人に屋敷をわたす」と告げられる。

その日からボスによる「お金の正体」と「社会のしくみ」についての講義が始まる。



2023年  
PHP研究所

## 夢の叶え方はひとつじゃない 私は、中卒作詞作曲家

著/岡嶋 かな多



BTS、NiziUなど人気アーティストへ多数楽曲を提供し、中卒から人気作詞作曲家になった岡嶋かな多氏が、中高生に「あなたらしく夢を叶える」ヒントを伝授！

もともと「この世から消えてしまいたい」という思いを抱え、自己肯定感が低かったという10代から、「音楽で、誰かのためになりたい」という夢を叶えるまでを語ります。

みんなにとっての「当たり前」な生き方が、実はあなたにとっての正解とは限らない！

今の中高生のリアルな質問に答えたオンライン座談会の一部も収録！

夢に向かって歩き出したい人の背中を押す1冊。



2022年  
スターツ出版

## すべての恋が終わるとしても -140字の恋の話-

著/冬野 夜空



共感&感動！

30秒で泣ける、切ない恋の超短編

140字で綴られる、恋の始まりと終わり——。  
(以下、本文『後悔しないように』引用)

「もっと早く告白しておけばよかった」  
幼なじみの彼は言った。慎重なところが魅力な彼だけれど、今回はその人柄が裏目に出てしまったらしい。

「元気出して」  
「まあ大丈夫。お前は俺みたいに後悔するなよ」  
こんな時ですら私の心配だ。でも、私はそんな彼のことが——。

「じゃあ、後悔しないように言うね」